



三條市立 第一中学校

◆学校データ

【学級数】 17 学級

【児童生徒数】 439 人

【地域コーディネーターの有無】 無

ふるさと三條に誇りをもち、自分の個性を発揮できる生徒を育てる

1 はじめに

当校は、嵐南小学校との一体校となり6年目を迎え、三条嵐南学園として小中一貫教育を推進している。9年間を見通し、9年間で児童生徒を育てている。

当校区は、平成16年に発生した7・13水害で被害が大きかった地域である。そのため、地域と「災害時にお互いに助け合い、愛するふるさとの危機的状況を回避するために主体的に動くことができる生徒」を育てることを共通の願いとしている。以下に、小中一貫教育をベースにしたその実践を紹介する。

2 取組の実際

(1) 三条嵐南学園の防災教育

防災教育として、新潟県防災教育プログラムを9年間の教育課程に位置付け、取り組んでいる。また、小中合同の避難訓練を年2回行っている。9年間で育てたい資質・能力は、地域の一員として嵐南地域を守ろうとする態度、自分の命を自分で守る力である。それらの力を発揮する集大成として、当校では三条市水害対応防災訓練に参加している。学習や訓練で身に付けた力を発揮できる機会としている。

(2) 防災教育で育成される資質・能力

①知識・技能

- ・災害に対する知識
- ・災害発生時に必要な避難方法の知識
- ・災害時に避難する際に必要な役割

②思考力・判断力・表現力

- ・災害時に適切な避難方法の選択
- ・地域の一員としてできることを判断する力

③学びに向かう力・人間性等

- ・自分のできることを発揮しようとする
- ・嵐南地域の人々の命や生活財産を守ろうとする
- ・地域と力を合わせて災害を防ごうとしている



小中合同防災訓練

(3) 三条市水害対応防災訓練

6月下旬の日曜日(今年度は6月23日)に毎年、三条市で行っている防災訓練である。当校には避難所が設置され、地域住民が避難してくる。その際、学校で部活動をしている生徒は地域住民と一緒に避難する。一緒に防災訓練をするようになって、4年目となる。当校ではこの防災訓練を地域教育プログラムとして教育課程にも位置付け、全校体制で資質・能力を育てている。

防災訓練の実際では、避難指示が出ると地域の代表から生徒へも指示が出る。ただ、マニュアルや明確な役割分担などの具体的な指示が出るのではなく、避難してきた人のために何ができるかを自分で考え、行動するよう指示される。自分たちでこの地域や地域の方を守るためにできることを考えてほしいと常に指導・指示をいただいている。

地域の方の補助はあるものの主体的に動く生徒たちも数多く、避難場所まで案内をする生徒、炊き出しの手伝いをする生徒、避難名簿を作成するため受付係になる生徒、避難所を開設するために必要な道具を準備する生徒、避難してきた方の不安を癒すために話を聞く生徒の姿が見られた。



防災訓練での生徒の様子

3 成果と課題

(1) 成果

防災訓練では、特別な指示を待つことなく、自分でできることを自分で考えるよう求められた。その結果、生徒はできることを自分で見付け動いていた。真剣

に主体的に活動する姿が見られた。

また、地域と一緒に防災訓練をすることにより、地域の方を気づかって地域の方と話す姿が3年生で見られた。自分が地域の一員であることを自覚し、できることを判断している姿であると考えられる。これらのことから、学年が進むに連れ、自覚と行動力が身に付いてきていると推察でき、4年間継続して取り組んできたことや三条嵐南学園の防災教育の成果であると考えられる。

(2) 課題

現在、教育課程に位置付け、取り組んでいる地域教育プログラムとはいえ、部活動に参加している生徒のみに留まっている。全生徒が参加して、これまで培ってきた資質や能力を發揮し、さらに力を伸ばす機会とはなっていない。今後は、全員参加の防災訓練となるよう、学校行事として実施し、全校生徒が自分のよさを再確認し、成長を実感できる機会として見直しを図っていく。

また、地域の方からの評価については、参加代表者からしか聞くことができていない。評価方法も改善し、生徒の資質・能力をさらに伸ばしていける地域プログラムとなるようにしていきたい。

4 おわりに

三条市も大きな課題として人口減少や市中心部の高齢化等が山積みしている。その解決のため、学校教育のできる取組の一つが災害時対応を足がかりとして、人の大切さ、命の大切さ、そして地域の大切さ自覚し、実践できる生徒を育てることである。

今後も地域との絆をさらに強めながらふるさと三条に誇りをもち、自分の個性を發揮できる生徒を育てていきたい。